

日時 : 令和7年2月3日(月) 10:00から11:30まで
場所 : 西大阪治水事務所1階 AB会議室
出席者 : 委員) 橋爪会長・伊丹委員・嘉名委員・山上委員・高野委員 計5名(欠席: 荒木委員)
まとめ :

【議題】(1) 審議事項

- ①水辺の賑わい創出事業者の事業評価について(八軒家浜)
 - ・審議の結果、当該事業の継続は妥当。
- ②水辺の賑わい創出事業者の事業評価について(尻無川河川広場)
 - ・審議の結果、当該事業の継続は妥当。

概要 : [以下、○委員 ●事務局]

【審議事項】

① 水辺の賑わい創出事業者の事業評価について(八軒家浜)

- 避難したものの避難所に入りきらない場合、施設に戻ってくる可能性があるがどう対応するのか。
- 現在、指定避難場所については地元自治体である中央区にも情報共有をしているが、施設に戻ってきた場合の対応については 周辺企業や鉄道とも連携しながら 今後 検討していく。
- 浸水時だけでなく、帰宅困難者に対する対応について検討していく必要があるのでは。
- 帰宅困難者に数日間対応できるだけの備蓄の準備や誘導方法など、今後対応を検討していく。
- 外国人の利用者が増えている中、ネットが繋がらない環境でも避難場所に行けるようなサイン計画などを考えていただきたい。
- 今回説明いただいた第4期の始めの2年間はコロナ禍の影響を受けていると思うが、その前の期のイベント数や開催状況を教えてほしい。
- おおよそ2023年度と同数程度。大きなイベントとしては、「はちけんやお花見フェスタ」、や「令和のSAKA天の川伝説」、「天神祭」がある。
- 災害が起きた際に、指定されている避難場所に歩いて避難するよりも、水門が機能し津波の浸水は想定されていないのであれば、川の駅はちけんやの施設にいた方が安全な気がするが。
- 川の駅はちけんやは避難所として指定されていないため、指定されているところに案内することを想定している。
- 津波が生じる際は河川に近づかないのが原則。この事業はあくまでも河川区域内での賑わい創出になるため、津波時・高潮時には、河川区域外にいていただくのが原則となり、戻ってくるというような行動をさせないのが基本だと考える。
- レンタルスペースのステーション8について、稼働していない時はどうしているのか。値段設定も高めの設定なので、例えば地域課題を解決したい、子育て支援事業が使えるような気軽に使用できる状態なのかお伺いしたい。
- 現時点で稼働していない時の無料開放は行っていないが、今後は、例えば周辺の企業の方に向けてお昼の時間帯に無料開放するなど、多くの方に使用してもらえるよう調整していきたい。料金設定については、周辺の貸会議室と比較して設定している。
- 水辺を生かしたテーマを条件としてステーション8をレンタルすることは大事だと思うが、インキュベーション施設というコンセプトもあるのであれば、気軽に使っていただけるような配慮があるとよりいいと思う。
- 今後ますます外国人が増えてくると思うが、川の駅はちけんやでの対応についてどうお考えか。
- 川の駅はちけんやの周辺には天神橋筋商店街や大阪城など様々な施設があるため、そこから川の駅はちけんやの方にどのように人を誘導していくか今後検討していきたい。
- 例えばドローンショーなどの大きなイベントを開催し、多くの人々が来られた際に避難所のキャパシティや安全対策は大丈夫なのか。
- ドローンショーは令和5年度初めて実施したが、今後実績を積み重ねながらインバウンドへの対応や安全

対策などを検討しながら進めていきたい。

- 大阪府では大阪防災アプリをインバウンドには紹介しており、多言語対応となっている。周知については行政として今後もしっかりサポートしていきたい。
- スマホを使わなくても、回線がパンクして使えなくなってしまったときでも避難できるようなサイン計画なども今後考えただければ。
- ステーション8について、使用していない時は寂しい景色となり残念に思うので、例えばコワーキングスペースなど、誰かが使っている景色を作れるよう是非考えていただきたい。
- 事務局において、事業評価書の「水辺の賑わい、集客性」の「今後」や「今年度」という表現を「令和7年度以降」や「令和6年度」などに修正すること。
- 審議の結果、八軒家浜の事業継続は妥当である。

② 水辺の賑わい創出事業者の事業評価について（尻無川河川広場）

- 大正区は0m地帯の箇所が多いとのことだが、0m地帯であれば津波だけでなく地震時も破堤することを想定した内容にする必要があるのでは。
- 南海トラフ巨大地震発生時の被害想定も含め、よりハードな被害状況を念頭に置いて避難行動を考えていく。
- 宿泊施設を設置するのであれば、外国人に対応できるのかが課題だと思う。
- 夜間に災害が起きた際に、宿泊者への対応はどうか。
- 外国人を含め、夜間にとっさに災害が起きた場合でも対応できるよう検討していく。また、宿泊施設は非接触型であるため、事業者が不在になる時間に災害起きた場合は、事業者の方に自動参集してもらうなども含めて検討していきたい。
- 1日の最大利用人数はどれぐらいか。瞬間の最大人数を想定し、避難場所へ入るのか、避難することができるのかということを確認すべき。
- 1日の最大利用者数は約400人。近隣の収容可能な人数が多い京セラドームを考えているが、他の近隣施設でもどれぐらいの人数が避難できるのかも踏まえて考えていきたい。
- 騒音については都度対応いただいているとのことだが、今後それだけでは対応しきれない場合は、ハード面の対応も含め検討の必要があるのでは。
- 事業のコンセプトの中に職人とのものづくりのまちという特性を活かしたワークショップがあり、期待している。しかし、今回の説明ではよく分からなかったので教えてほしい。
- 当初はC棟で実施予定であったが、コロナ等環境の変化があったためB棟のイベントスペースを活用して定期的にワークショップを行うこととした。C棟は宿泊施設を整備していく。
- これまでの事業期間で避難等が必要な状態に至るようなことはあったのか。
- 2020年1月開業以降、そのような状態になることはなかった。ただ警戒レベルで営業を中止することは過去2回ほどあった。
- 大正区は南北に長く、タグボート大正があるのが北の方になると思うが、定住者を増やすことを考えた場合、南の方へのPRはどのように考えられているのか。
- タグボート大正での賑わいを南の方へと波及できるよう色々な取り組みをしているところ。まだしっかりとした連携した形は取れていないが、例えば区役所の近隣公園でマルシェの実施や、空き家を巡るイベントなど、できるだけ南の方へ足を運んでいただくような取り組みを行っている。
- 大正区の周辺には木津川水門と尻無川水門があり、インフラとしては非常に魅力的な施設だと思うが、例えばタグボート大正に集まった人をインフラツーリズムで南の方へ誘導するなどとは考えられないのか。
- 船で水門を見ながらお寿司を食べるようなツアーは過去に少し実施したことがあるが、コロナ禍で一時的に中止となっているので、できれば今後も水辺を眺めながら船を楽しんでもらえるようなコンテンツを考えていきたい。
- 水門を閉鎖すると水門より下流側は水位が上がり、市街地に入ってくるリスクが高くなり危険なのではないか。南の方の賑わいを考える上でこの辺りも大事になってくると考える。
- 水門を閉鎖すると下流側で水位が上がるのは事前に想定している。水門より下流側は上流側に比べて堤防高が高くなっており、液状化対策にも取り組んできている。また、地元へ避難を呼びかけるなどソフト対策も行っている。南側の観光振興も併せて進めていきたい。

○定期航路の今後の展開は。(高野委員)

●当初は定期航路を取っていたが、ニーズを考慮し舟運事業者と相談しながら現在は1日1本の提供となっている。今後ニーズが増え、観光客が増えてればもう少し増やしていきたいと考える。

○資料2-2で京セラドームまでの避難ルートを示した案内サンプルをお示しいただいたが、その他の避難所への誘導も同様に作成されるのか。

●現在1ルートをイメージで作成しているため、全てのルートを今後作成していこうと考えている。

○避難場所が複数あると避難者も誘導するスタッフも混乱する可能性があるので整理が必要。部屋に置く避難案内も、地震等の警報が出る時だけではなく、一般の水害の時も対応できるように部屋に置く案内は分かりやすく作成いただければ。

○大正区へのお願いで、部屋での避難案内だけでは難しいと感じるため、サイン計画も併せて検討していただきたい。

●河川管理者としては、事業者や占用主体に対して、台風における高潮の災害はリードタイムがあることから高潮警報が出る前に営業停止をしていただき、また、突発的な地震というハザードに対してはとっさに逃げてくださいよう、河川管理区域内での出来事になるので、しっかりと情報共有を図ってきたい。

○宿泊施設より一番近い施設が大正ゆめの樹保育園となり、まずこちらに逃げてもらえるのか、橋を渡って京セラドームに逃げてもらえるのか、どう避難するのが一番いいのかもう少し詰めていただければ。また、この宿泊施設は警報が出れば自主的に避難するものなのか、スタッフが指示するものなのか。

●基本的に非接触型のホテルを想定しているため自ら逃げてくださいような内容のマニュアルを部屋に置こうと考えている。

○であれば余計に宿泊者が見て簡単に分かるように作成する必要があると考える。

○審議の結果、尻無川河川広場の事業継続は妥当である。